

けんそうしんぶん 研創新聞

特集記事 「森の作業体験バスツアー」

越後(に)いきる家をつくる会
第30回、7月12日(日)

日本は国土の3分の2が森林で覆われており、木材資源が豊富な世界有数の森林大国です。森林の約4割が人工林(育成林)であり、戦後植林された木々の多くが利用可能な樹齢に達しています。が、現実の木材利用率は、外国産材が7割強を占め、日本産は28%(平成25年)です。皆様は国産材は価格が高いとお思いでしょうか、逆です。



参加費:1,000円(バス代・昼食費)
作業用具はコチラで用意しますが、長靴や雨具等は、ご持参下さい。
申し込み先:越後(に)いきる家をつくる会 ■025-262-2320



この山の作業体験会も30回目になります。有り難い事ではありますが、参加者が固定しまったのも現実です。次回からは新たな人が参加できる工夫をします。

ただ、価格が安すぎるのと林業の衰退要因となります。植林・間伐・林道整備等の造林コストが賄えませんが、そのために、長期的展望を見据え、供給側と受け取る側の双方が納得する価格形成への取り組みが欠かせません。

当地・阿賀町でも過疎・高齢化の課題を抱えており、地域の活性化に繋がる林業の産業化が有効な対策です。国も「日本成長戦略」・森林・林業の再生プラン」を掲げ、2020年には木材自給率50%が目標です。その前に大切なのは、川上・川下に住む人全員が、その意義を共有する事です。先ずは、山に入り、森林の恵み・有り難さを体験する。ご参加をお願いします。

今、問われる 「教育・しつけ」とは

大河ドラマ「花燃ゆ」が好評放映中である。今、日本を取巻く世界情勢は、ペリー艦隊が開国を迫って押し寄せた幕末期に酷似している。相違点は、吉田松陰のような熱き指導者と、草莽の息吹を感じられないことである。

未曾有の東日本大震災直後、暴動・略奪もなく整然と列を為し、他者を思いやる姿に世界中が驚嘆し、絶賛した。しかし、復興が遅々として進まぬままに四年半が過ぎ、再び、物・金優先の社会で、日本人らしさ、心の文化が失われようとしている。「心の教育」とは、自らの良心に問いかけて非道を戒めた「お天道様が見ている」という倫

理感であり、「親を敬い、子を慈しむ」親子・師弟関係である。進・入学のために話式式教育とは根底から違つものである。「心の文化」とは、母親の慈愛で、「三つ子の魂、百まで」の諺どおり、泣いても笑つても教え込まなければならぬ時期がある。厳しい子育てであり、男女平等が叫ばれて久しいが、男性は、この教育部分だけでは遥かに及ばない。

今、大切な教育とは、かつて、余暇の拡大を目論んで失敗した「ゆとり教育」などではなく、地域で育て、見守り、母親が覚悟を持って伝える「心のゆとり・しつけ」という花であり、阿賀野市の全家庭で咲かせたい。

阿賀野市小浮 長谷川孝治
○読者の皆さま、この欄への投稿をお願いします。(編集部)

「あがの家」創生プロジェクト

「三方良し」を目指してご参加を

この欄はこれまで「研創の家づくりの特権」でしたが、今月号から「越後にいきる家をつくる会」・「あがの家」創生プロジェクト」に変えます。

「越後にいきる家をつくる会」は平成13年4月発足、今年15年目となりました。会則3に「新潟県産木材の需要拡大を図ることで、山村及び地域の木材、住宅に係る産業を活性化し、次世代に引き継ぐ住み心地の良い地域とネットワーク作りを目的とする」と記載されています。

以来、講演会・見学会・会報発行・山の作業会・建築学研修会・各種



この家も「あがの杉」と「大工の手刻み」「安田瓦」でつくられています。設計に洋風・和風の区別はありません。

イベントへの参加、等々、様々な活動を行って来ましたが、その実質的効果を今振り返ってみると、微々たるものであった事は否めません。昨年、県内の人・モノを活用した「越後特産品創生事業」を掲げましたが、それと同日の目を見る事は出来ませんでした。越後といつても余りにも広範囲。

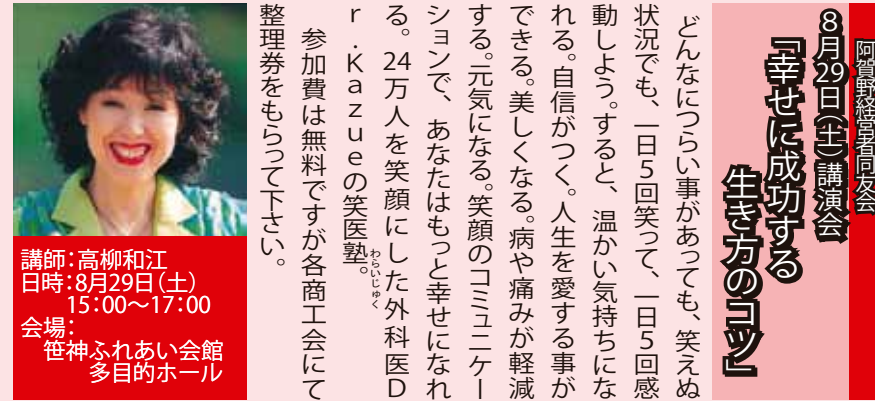
今まさに、地方活性が急務です。そこで、ある一定のエリアの資源・

必要なものはしっかり注文しよう

お正月の初売りに福袋があります。豪華な中身に對してリーズナブルな値段が付いています。お買い得だと、皆そぞろと買求めます。本当にお得なのでしょう。か、実は、家づくりで注文を付けないというのは、福袋を買うのと同じなのです。つくり手側の都合で、住まい手に本当に必要な事が実現されず、いろいろなことが詰め込まれている事なのです。福袋のように、住宅会社にお任せして、コストが安くなったとしても、お金の無駄です。必要なものはしっかりと注文しましょう。それが出来ないのであれば、いくら安くても価値がありません。これから家づくりを考える人は、自分たち

8月29日(土)講演会 「幸せに成功する 生き方の『ツ』」

阿賀野市青年会
阿賀野市青年会
講師:高柳和江
日時:8月29日(土)
15:00~17:00
会場:世ふれあい会館
多目的ホール



日本の家づくりの未来を考える

増田二眞著書より要約
「力の形態の認識こそ
デザインの根源」
Part6

あらゆる条件の基に、自由に構築しうる自在性を得ようと思えば、構造の原点に立ち返って架構を組み立てるしか他ない。構造の原理は、誰でもその気になれば容易に解ることで、一般大衆にすら伝達可能なのである。以前は数式に強い人にならなければならない。自由な構築は、誰でもその気になれば容易に解ることで、一般大衆にすら伝達可能なのである。以前は数式に強い人にならなければならない。



木の家ならば、「あの山の木を使い、安田瓦の屋根にしたい」と注文すれば、間違いなく価値は高まるのですが、

「家づくりは人づくり」 ある論文より

一年中快適な家に住みたいというのは、人間の本能的な欲求です。家を建てようとする人は、誰でもそうした家を求めたいでしょう。しかし「肉体と精神と魂」を持った「人間」という生き物が住むところが、四季のある日本で、夏も冬も、昼も夜も

一年中同じ快適さで、果たして本当にたくましく、健康で、感性と創造力のある人間に育つのでしょうか。育ち盛りの子供がいる家庭では、快適さよりむしろ四季の変化を味わえ、自然と触れ合える環境が必要なのではないでしょうか。快適な環境を守ろうとエアコンを効かせ窓を閉め切つて過ごす。外の気配が全く分からない家。夏の暑さも冬の寒さも春秋の爽やかさも伝わらない家。風の音も、カエルや虫の鳴き声も、鳥のさえずりも聞こえない家。庭に咲く花や見事な紅葉に無関心な家。こんな環境に閉じこもってゲームをしたり、スマートフォンで仮想世界を楽しんでいるのが今の子供たちです。これで人の痛みがわかる、感性豊かな優しい子供に育つでしょうか。



県産木材、安田瓦を使えば、この何倍もの補助金です。

「健康と幸福への道」 より要約

現代人の不幸の原因は、生命力を失う力の減退であると言つた。そしてそれは詳しく言えば、生命を構成する心と身体の不調和(アンバランス)と消極化である。そこで、生命力・命の力(六つの力)を充実させるためには、何をしておいても、先ず心と身体の調和を計り、活発に働く方法を考えなければならぬ。ここで、心身の調和が第一の問題となる。すなわち心と身体を一つにまとめて調和した状態に置く事、心身統一が先決の要件なのである。

天風哲学・心身統一法
「健康と幸福への道」より要約

現代人の不幸の原因は、生命力を失う力の減退であると言つた。そしてそれは詳しく言えば、生命を構成する心と身体の不調和(アンバランス)と消極化である。そこで、生命力・命の力(六つの力)を充実させるためには、何をしておいても、先ず心と身体の調和を計り、活発に働く方法を考えなければならぬ。ここで、心身の調和が第一の問題となる。すなわち心と身体を一つにまとめて調和した状態に置く事、心身統一が先決の要件なのである。

これは形のある物質を重んずる唯物論的思考で、物質文明の影響と言つてよい。物質文明

リフォームのプロに お任せください

水回りの改修などあまり重視されていないのが脱衣室ではないでしょうか。一般的に洗面化粧台と洗濯機などが配置されますが、洗濯物の置き場所やタオル、着替え、洗剤など種類が多いので収納場所がないと付きます。後付けで棚や収納を付けるのも良いですが、洗面化粧台など入れ替える時に付属のキャビネットなどを使うとスッキリと納まります。



上部に収納をつけた洗濯機置き場。



株式会社 研創
〒959-2205 新潟県阿賀野市寺社246
TEL0250-68-3212・FAX0250-68-5271
http://www.kenso.info/
E-mail:info@kenso.info

「地元の工務店」を お勧めする単純な理由

地元の工務店は地元で生きています。評判が悪くなると地元では仕事が出来ません。だから一生懸命仕事をします。地元の材料と職人さんのつくる家を建てると、そのお金は地元を潤します。ハウスメーカーで家を建てても、そのお金は大半は中央に集められ、地元には落ちません。お互いが、顔を合わせ、語り合い、思いを共有する事で、新しい人間関係が生まれます。当社では「生涯のお付き合い」が合言葉。今、地元の「ミニミニ」が見直されています。工務店は地元の人々と深く関わっていますし、お客様同士つながりも生まれます。

の基礎となつている科学は、生命を取り扱うにも、形のある物質として捉える立場にあるので、どうしても精神という無形方面には手を付けられぬ欠点がある。

我々は物質文明に対する科学の偉大な貢献と、その貴重な価値を認めると同時に、科学の持つ限界を知つて、身体に対する同様な関心を、心に対しても持ち、生命全体の正しい生き方を学ばねばならぬ。一方、精神本位の考え方は、哲学や宗教が説くところで、現象から離れて概念の世界に入る。肉体は現象界にある化相のもの、無形の実在こそがこの現象を支配していると考えられる。肉体を軽く見て、心の大切さばかりを力説する。しかし、生きていく肉体という事実を否定したり、無視して生きる訳にはいかない。